

### 受験生は必ずお読みください。

## 報われない努力？

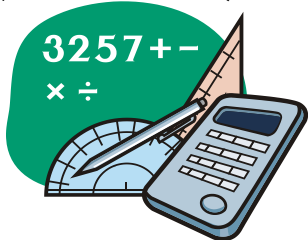
●夏休みに入り、早くも二週間余りが過ぎた。

勉強の進み具合はどうだろうか？順調に進んでいる人は、そのまま維持すること。出遅れている人は、今一度計画を立て直してがんばってほしい。

●ところで、「報われない努力」があることを知っているだろうか？学習塾で教えていながら、こういうことを言うのはいけないのかもしれないが、現実にあるのだ。そして、残念ながら、創学舎の生徒にも毎年何人かはいる。かけがえのない大切な存在だから、きちんと伸ばして送り出したいと思うのだが、なかなかうまくいかない。自責と弁解でいつも揺れ動いている。

●さて、「報われない努力」とは何か？実は二つの段階がある。

まず、その一。ただ参加するだけの状態。テキストは埋めただけ。授業は来て聞いているだけ。問題は解きっぱなしで答え合わせもやり直しもしない。本人は、塾に来ているし、何かの作業はしているのだから、少しはやっているつもり。一方、親は、自分に受験の経験があっても、我が子が勉強する時の真剣さ、心の在り様まで見抜くことは難しい。



従って、「塾に通っているのに、何で伸びないのだろう」と、当然の如く疑問を抱く。残念ながら、伸びない状態がずっとこのまま。

その二。機械的の反復の状態。指示されたことはやる。課題もこなすし、小テストもきちんと合格する。授業は真面目に受けるし、理解もしている。

しかし、正解を導き出すための考える力が弱い。だから、ある程度の点数まではいくが、難関校に合格するのに必要な点数まではとれない。勿論、機械的でもとにかく繰り返すから、少しずつは上がっていく。ある意味では、最も残念な生徒達。本人はやっているのだから、これは苦しい。親も「よくやっている。」と思っているはずだ。だが、少しずつ上がっていくだけの状態がずっと続く。本人が自分の弱点に気付くまでは。

●では、伸びるために、はっきりした成果を実感するためにどうすればよいのか？それは、自分を追い込むことである。必ず正解はあるわけだし、出せるはずである。だからこそ、入試問題として成立しているのである。答を出すために、できるだけのことをする。自分が知らないことで、どういう手段があるのか講師にきく。基礎的な事項でも、入試問題でも、常にこの姿勢で取り組む人は大きく伸びる。伸び方も早い。具体的には、授業の中で、追い込み方を教えていくのだが、「機械的の反復の状態」にある人は充分見込みがある。知識はある程度吸収してくれているし、最低限の真面目さ(＝機械的の真面目さ)は備えているからである。しかし、「ただ参加するだけの状態」の人は、大変である。そこが、講師の腕の見せどころ…となるのだが。

## 受験生へ！

### 死ぬほどくり返せ！

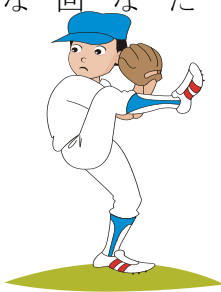
●さて、キミは、「報われない努力」のグループにいますか。いるとしたらどちらですか？(そこから脱した人は問題なし。)また、その中にいる人は、強く強く自覚して下さい。そして、「報われる努力」ができるように、自分を変えていくのです。幸いに、まだ時間はあります。がんばれ！今度こそ、本当にがんばれ！  
(小林(健))

●受験生の皆さん！ほとんどの人が何らかの部活を経験しているはずだが、もう一度練習メニューを思い出してほしい。どの部でも、毎日基本練習を飽きるほどくり返してきたに違いない。大事だからである。強い部ほど、上級者ほどこの練習を大事にするものだ。

- テニス部「ミニテニス、ストローク練習、ボレー、スマッシュ、サービス等を毎日」
- 野球部「キャッチボール、トスバッティング、ノック、シートバッティング等を毎日」
- サッカー部、バスケット部、吹奏楽部…すべて基本練習は毎日。

●さて、受験生としてはどうか？愚かとかいようなのない人が大半だ。

部活では、あれほどやった基本練習を、受験勉強になるとおざなりにする。一回やって、その後は何もしな



い人が何と多いことか。伸びるはずがない。

●受験勉強は、ある意味では一定の知識を吸収し、使えるようにする訓練である(但し、私達は単なる訓練以上の価値を見出している)。訓練である以上、反復は欠かせない。中でも基本練習は、毎日へどが出るほどやらねばならない。勿論、科目によって、何が基本練習か、何回やるのかは異なる。数学だと、副教材を毎日解くことがそれに該当するだろう。全冊解きあげて、二回りするところへどが出るはずだ。こうしたことを続けることによって、初めて力がついてくるのだ。この夏は、科目ごとに指示された基本練習をへどが出るほどやれ。その先に応用が見えてくる。  
(小林(健))

## 『生きる目的と目標について』

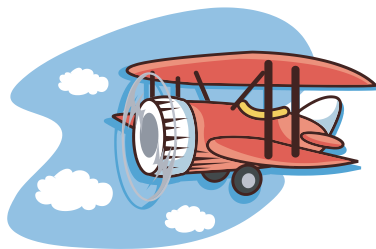
### 目標について

●まず目的と目標の違いについて。今からあなたが歩いて千葉県から京都府(目的地)に行くことにします。そのとき間違えずに目的地に着く為には、必ず途中で目印になる場所(目標)を確認するはずです。つまり、千葉県から京都府の間にくっつかの目標を設定するはずなんです。この目標を一つ一つクリアしていけば目的地である京都府に無事に着くわけです。これで、目的は達成した。

●ところで、人間は何のために生まれてきたのか。生きる目的は何であるか。この問いは古代から現代にいたるまで幾度となくくり返されて

きた。それは元来このことがあらかじめ決まったものではないからであると考えられる。

●地球上の生物には共通して、自己保存(固体維持)と種族保存のために努力するという強い傾向がある。だから自然に任せておけば健康的生物はそれが目的であるかのように生きていくので、決して空虚ではない。しかし、人間の脳は大きく発育し、そのために意識作用が他の生物と比較にならぬほど高度に発達してきた。



その結果、人間は他の生物と同じように、ただ盲目的意志のとりこになって生きていくことをいさぎよしとしないうようになった。別の観点から見ると自然の法則から少し逸脱した存在となった。いわば過剰な欲望とエネルギーをもった生物なのだ。そのため、他の生物と違って過剰な分だけ、生きる目的は自分で見つけるか、作らなければならなくなった。私自身、他人に向かって自信を持って『生きる目的』は何々ですとは言えない。

●しかし、今まで生きてきた経験から、自分にとって、人間にとって望ましい状態はわかる。それは自分がいま何か有意義(このことの意味・実感も難しいことだが)なことに努めているのだという自覚であり、その充実感を持つことなのである。『生きる目的』はわからないが、生きる喜びがあれば生きることが出来る。そして人生の喜びは、目標に向かって一歩一歩進むときの

心の張りなのではないか。たとえその目標が、その願いが実現できなくても、だ。人間は一年後に死ぬかもしれないし、五十年後に亡くなるかもしれない。だから、目標を決めて、それに向かって努力する過程こそが人生の大半になるのではなからうか。すると努力することが人生の目的の一つと言っているのではなからうか。

## 12分間の青春

(柳)

●夏休みに入ってから、楽器を持つ学生たちを頻繁に見かけるようになった。夏は、吹奏楽部の生徒にとって、一年に一度しかないコンクールの季節である。私は、そんな彼らを微笑ましく思い、時に羨望も感じる。私もかつてその舞台を踏んだ一人だったから。

●全日本吹奏楽コンクールは、まさに吹奏楽における「甲子園」である。秋に実施される全国大会を目指して、夏は各地で予選大会が行われる。中学の部でいえば、約七〇〇の参加校から全国大会へ進めるのはわずか三〇校程度に過ぎない。コンクールに参加する者は、去年よりも上の成績を、まずは金賞を(金賞団体の中から次の大会にすすむ団体が選ばれる)、の願いをもって練習に励む。

●コンクールに対しては批判も存在する。賞を取



るために、過剰な演出や、高度な技術に頼った演奏が横行し、芸術性や教育的意図を無視しているという批判や、特待生制度に対する批判であり、うなずける部分は少なからずある。

か12分のために……。『12分間の青春』これほど象徴的な言葉はない。

●だが、私はコンクールがとても好きだ。今でも全国大会を聴きに行ったり、実況を収めたCDを購入したりしている。アマチュアとはいえ、気迫のこもった鳥肌ものの名演に出会うことも多い。

●吹奏楽部の部員たちは、初夏からこのコンクールの時期にかけて、同じ曲を何度も何度もひたすら練習する。時には、音程が合わないために、音程を合わせる練習だけで二時間の練習が終わってしまうことすらある。中だるみの時期もあれば、できないフレーズがあつて挫折しそうなときもある。

●しかし、不思議なことに、練習を繰り返すうちに、同じ曲に飽きるどころか、決して好きとは言えなかったその曲が好きになり、演奏するたびに新しい発見も増えてくるのだ。そして、できなかったフレーズの壁を乗り越えた時、「すごく良くなったな！」友人の賞賛が待っている。本番を前にして壁を乗り越えることそれはその後の自身の大きな糧となる。

●「12分間の青春」とは、高校一年の夏、初めてのコンクールに出場した時に、一人の審査員が講評で口にした言葉だ。コンクールでは、すべての演奏を、12分以内に行わなければならないという規定がある。わずか12分のために数百時間もの練習を重ねる。わずか12分のために五〇人を超える仲間がこころを一つにする。わず

### ▲▼▲継続希望の方へ▲▼▲

- ▶卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。

## 創学舎の本

### ■愛の壁■

—おはなは母さんあななの愛の壁—

著者：小林 憲右

2006年5月1日発行(1,500円税込)

新星堂他全国書店にて

好評発売中!

